



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
～ 努め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの中で、

かしこい子(知) 明るいい子(徳) たくましい子(体)

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページは <http://osato-esaitama-city.ed.jp/>

メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

令和7年2月28日 第11号

桜色

校長 新堀 栄

職員玄関には、保護者の方から拝借した盆栽の梅が、紅白の花を綺麗に咲かせて私たちの目を楽しませてくれています。1年生の植木鉢には、チューリップの芽が力強く伸びています。校庭の桜の木も少しずつ花芽のふくらみが増しています。季節はいつものように巡り、春が少しずつ確かに近づいています。

巷には、春の季語である「桜餅」をはじめとして、「桜羊羹」「桜プリン」「さくらバームクーヘン」「さくらドーナツ」「さくらラテ」など、おいしいものが溢れ、街もピンク色に彩られています。そして、3月は5日に「啓蟄」、20日には「春分」を迎えます。

今年度は、大砂土小学校で学ぶ子ども達にとっても、教職員にとっても、印象深い年となりました。コロナ禍以前の行事が復活し、さらに工夫改善を施した行事を進めることができた一年となりました。

話は変わりますが、先ほどの桜に因んだお話です。中学校の国語の教科書（光村図書版）に取り上げられている、「言葉の力」という文章に不思議な現象が掲載されています。「言葉の力」は、詩人で評論家の「大岡信さん」が、京都の嵯峨に住む染織家の「志村ふくみさん」との対談を思い出して執筆した文章です。少し紹介しますと、大岡信さんが、きれいなピンク色に染まった「桜染めの布」を見た時に、桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思っていたところ、そのピンク色は**桜の木の皮や枝を染めだした色だ**ということを知って驚いたということです。以下引用です。

『私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色が取れるのだという。志村さんは続いてこう教えてくれた。この桜色は一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだ』、と。 [『ことばの力』（花神社、1978年）所収]

間もなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が卒業生に重なります。

来月24日には、223名の6年生が本校を卒業します。現在のところ、東京の桜の開花日は、3月21日です。学校全体が美しい桜色で染まる中、前途洋々の卒業生を送り出したいと思います。

終わりに、この1年間、保護者並びに地域の皆様の学校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。